

令和6年度堀江南小学校学校評価アンケートの結果と分析【児童】

【児童アンケート結果で評価が高かった項目】

No	項 目	R5(%)	R6(%)
1	先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる。	100.0	100.0
2	漢字や計算の力がついてきている。	91.7	96.8
5	授業中、人の話を集中して聞いている。	97.0	90.4
6	宿題をきちんとしている。	97.1	90.3
8	テレビやパソコンを使った学習が好きである。	94.1	100.0
9	自分には、よいところがある。	97.0	90.3
10	先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる。	97.1	96.7
15	先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている。	97.1	93.5
16	学級の係や当番の仕事、掃除などに、積極的に取り組んでいる。	100.0	93.5
17	学級、学校の一員として、考えて行動している。	100.0	90.3
19	先生は、困ったり、悩んだりしたときに、相談にのってくれる。	100.0	96.8
21	事故にあわないよう、いつも気をつけている。	100.0	96.8
22	避難訓練などは、真剣に取り組んでいる。	100.0	100.0
23	いじめなどはどんな理由があってもいけないことだと思う。	100.0	96.7
26	校外へ出て、見学したり体験したりする授業は好きだ。	97.1	96.8
27	いじめや差別をなくし、人が幸せに生きるための人権学習は楽しい。	100.0	96.8
28	授業中、自分の思っていることや考えていることを発表している。	100.0	90.3
30	健康や安全面に気をつけて、毎日、元気に学校生活が送れている。	97.1	93.6

【児童アンケート結果で比較的評価が低かった項目】

No	項 目	R5(%)	R6(%)
4	進んで運動し、体づくりをしている。	82.4	77.5
13	身の回りの整頓は、自分でできている。	85.3	77.4
18	地域の行事などに参加している。	76.5	67.8
24	学校や家で本をよく読んでいる。	70.6	54.8

【児童アンケート結果で大きく変化した項目】

○数字はアップ、数字のみはダウン

No	項 目	R5(%)	R6(%)
②	漢字や計算の力がついてきている。	91.7	96.8
③	テストでは、思い通りの点数が取れている。	82.3	87.1
⑧	テレビやパソコンを使った学習が好きである。	94.1	100.0
7	グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである。	100.0	87.1
20	学校へ行くのが楽しい。	97.1	87.1
24	学校や家で本をよく読んでいる。	70.6	54.8
29	作文や日記を書く力が身につけてきている。	97.1	87.1

【児童アンケート結果でその他の項目】

No	項 目	R5(%)	R6(%)
11	うまくいかない時も、がんばり続けることができる。	88.2	97.1
12	自分の判断で、行動するようにしている。	91.2	87.1
14	朝は、決まった時間に起きている。	94.1	87.1
25	テレビやゲーム・インターネットを使うときのルールを守っている。	88.2	87.1

- 今年度の重点項目として取り上げた、「教育活動全体を通じた人権教育の推進」「温かい人間関係や信頼関係に包まれた学級経営」「自尊感情の育成とポジティブな行動支援の推進」「豊かな仲間意識を育む活動の充実」への取組が概ね成果が見られたといえます。関係機関と連携した活動や地域の特性を生かした教材の使用等、学校全体で系統的な人権教育を進めることができました。また、主体的な児童の育成を目的として、昨年に引き続き、学級会活動を中心に自分の意見を積極的に発言できるように話し合い活動の工夫や自己有用感を高め協働して課題解決する力を育てていきました。さらに、個に応じた係・当番活動などを設定することで、自他の必要性を実感し、のびのびと活動することができました。このような活動から「ともに認め合い支え合う仲間づくり」を進めることができます。今後、引き続き「ポジティブな行動支援」を学校全体で取り組み、少人数の利点を生かし、個に応じた目標を設定し、その達成に向けて指導を進めてまいります。そして、すべての児童が自分の居場所があると感じる、温かい人間関係・信頼関係に包まれた学校づくりに取り組んでいきます。
- 温かい雰囲気の中で「わかる・楽しい授業」を展開できるよう心がけてきました。小規模校の強みを生かし、きめ細かな支援で、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図ってきました。今年度は特に、個別最適な学習を進めるために、ICT機器を有効に活用しながら授業改善を進めてきました。また、1人1台端末を活用して、AIドリルやオンラインでの認知機能強化トレーニングに取り組むことで、既習事項の定着や学習意欲の持続・向上がみられ、一定の成果を得ることができました。今後、グループ学習等を工夫し、個々が身につけた知識を協働的な学習につなげることで、学び合う集団づくりを推進していきます。
- 一方、読書の習慣化についての評価は、十分な結果が得られませんでした。地域ボランティアの読み聞かせ活動や児童による読み聞かせ等は、引き続き実施し、魅力的な図書の選定や本を身近に触れられる環境づくりに力を入れていきます。読書習慣を身につけるために、一斉読書の時間を設定したり、家庭読書と呼びかけたりするなど、学校と家庭の両面から読書に親しむ習慣をつくっていきます。読書活動を活性化させることで、「読む」「考える」等の基礎的な学力の定着を図り、学力向上につなげていきます。
- 今年度、児童の自発的なあいさつが多く見られました。児童同士や来校者に対しても気持ちのよいあいさつができています。積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の高まりが感じられます。全体で意見発表の場を設定したことが、自発的行動の高まりの要因と考えられます。
- また、少人数による活動のしやすさを生かし、学校、学級単位で多くの出前授業や校外学習を実施しています。活動や体験を通して、知識の習得以外にコミュニケーション能力が培われています。
- 児童は防災についてしっかりと考え、避難訓練や避難所設営、発電機の始動、担架作り、消火訓練、起震車体験など、様々な活動を通して、自助の意識が高まっています。
- また今年度は、学校運営協議会委員の方々に関係機関と連携する機会を設定していただき、相談を重ねることで、学校の実態に即した訓練を実施できました。訓練の回数を増やすことで、児童の行動も習慣化されつつあります。また、アンケート結果から家庭の方での防災意識の高まりが見られました。今後、フェーズフリーの観点を各教科で取り入れ、さらなる意識向上を図っていきます。
- 体力の向上についての評価結果は、来年度の課題になりました。夏の異常気象もあり体を動かす機会が制限されたことも要因の一つと考えられます。しかし、各大会の練習には、大会出場の有無に関係なく多数の児童が参加しました。また、大会に出場した児童の記録は、ほとんどが自己ベストを更新するなど成果を上げています。今後、運動する場の設定を工夫したり環境を整えたりすることで、より一層運動に親しませていきます。
- コロナ禍からの学校行事の見直し・縮小に伴い、児童が地域と関わるのが少なくなりました。今年度は、学習の一環として、地域施設に出向いたり、地域の方をゲストティーチャーに招いたりしながら、積極的に関わるすることができました。学習後の児童の感想は、地域の方々への感謝の気持ちやふるさとのすばらしさを知るなど郷土愛に溢れた思いが感じられました。
- 今後も地域教材の開発や地域との連携を図りながら、児童の健全育成に努めてまいります。